

6 生徒とともに振り返る

☆「指導と評価の一体化」

→ 2章-3

学習活動としての振り返り

単元（題材）や本時における学習の振り返りは、生徒が自分の理解したことを整理するために行う学習活動です。

生徒にとって、単元（題材）ごとの学びの中で、何が分かって何が分からないのかを自分で把握することは大切です。

教員は、生徒の振り返りから、生徒一人ひとりの分かっていること、分からなかったことを分析し、今後の授業の中での工夫につなげる必要があります。生徒の振り返りに寄り添い、適切な言葉掛けをすることによって、生徒の学習に対する意欲を育てるとともに、教員自身も成長するチャンスとなります。 → 2章-3

次時につなげるための振り返り

生徒にとっても、授業で理解したことを確認することが必要です。分からなかったことがあれば、復習したり、調べたり、次の時間に確認したりする必要があるでしょう。自分のことを自分で理解することはステップアップするチャンスなのです。また、活動の振り返りによって、「自分の考えを発言できた」「次回は友達の意見を聞きたい」といった学習態度の育成にもつながります。

☆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

1回1回の授業で全ての学びを実現させるものではありません。単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するかが重要です。 → 2章-5

振り返りはいつさせる？

振り返りも学習活動なので、基本的には授業時間の中に位置付けます。振り返りなので、終わりの数分間をあてることが多いでしょう。単元（題材）の最後や家庭学習で振り返りをさせることも含め、学習活動のねらいに合わせて、時間を確保しましょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

効果的な振り返りの活用

授業カードを使い、「目標」「分かったこと」「難しかったこと」などを書き込めるようにすると、生徒は授業の振り返りがしやすくなります。

また、生徒の努力したこと・頑張ったことを教員が拾い集め、それを生徒に返すことを考えましょう。

教員の評価だけでなく、友達によるプラスの評価が生徒本人に伝わることも、更なる意欲につながります。



振り返りシートを活用した振り返り

☆「指導に生かす評価」として生徒の振り返りも重要

振り返りにより、生徒の進捗やつまずき、疑問点、理解度を把握し、次時の指導に生かしていきます。

〈例〉「家庭科 エコバッグの製作」（10時間扱い）

＜振り返りシートのねらい＞

・生徒が「見通し」をもって授業に取り組み、「振り返り」を行って、次の授業につなげる。

「エコバック」製作記録カード

目標：				
製作手順		予定	取り組んだ日付	振り返り
1	製作手順の確認・目標の設定・基礎縫い練習	6/3		
2	デザイン画作成	6/3		
3	裁断・印つけ	6/10		
4	本縫い①ポケットつけ	6/10		
5	②両脇を縫う			
6	③紐をつける			
9	仕上げ			
10	発表会・振り返り			
【完成後の振り返り】※学んだことや今後にかきたいことを書こう				自己評価 A B C

予定の日付で進捗を確認させる。
一つの工程に時間がかかったり、やり直したりすることがあるので「取り組んだ日付」欄は2列以上設ける。

授業の終わりに授業の振り返りを記入させる。

毎時間、進捗の確認をしてチェックを付けたり、生徒の振り返りに対してコメントを記入したりする。毎時間の確認が難しいようであれば、作業のまとまりごとにチェックをしてもよい。
時間のかかっている生徒については作品を確認し、次の作業についてアドバイスを記入する。

＜活用方法＞

- ・時間の最後に振り返りを記述させ、記述内容や作業の進捗状況を確認後、次の時間の始めに返却する。
- ・本時の作業や、やり直しの場合は理由等を確認させる。
- ・同一の作業段階の生徒を集めて、作業の確認や指導をする。

☆できたことを互いに認め喜び合える関係づくり

振り返りの中で、できなかったことばかり考えるのではなく、できるようになったことを共有できる仲間づくり、雰囲気づくりを考えましょう。皆で伸びていくことによって、より学びが深くなり、自己肯定感を高め、学習する喜びや意欲につながっていくでしょう。

実技を伴う教科での振り返り

技能の習得には毎時間の積み重ねが必要です。振り返りを有効に活用して、次のステップへ進ませ、技能の向上や作品を完成等へ導くとともに、良いものを目指す姿勢を追求させましょう。

「生徒による授業評価」

神奈川県は、生徒の確かな学力を育成するため、各学校における教員の指導力の向上や授業改善を図るとともに、生徒自らが学習への取組を見つめ直す機会とすることを目的として「生徒による授業評価」を実施しています。この活用を図ることによって学校の実態と課題を把握し、組織的な授業改善を継続的に実践していくことが求められています。